

経営比較分析表（令和6年度決算）

岡山県 浅口市

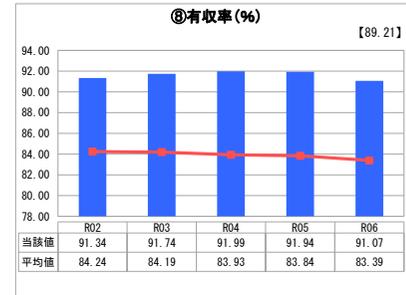
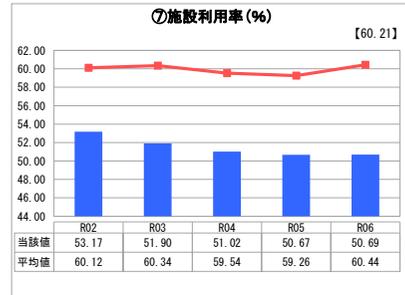
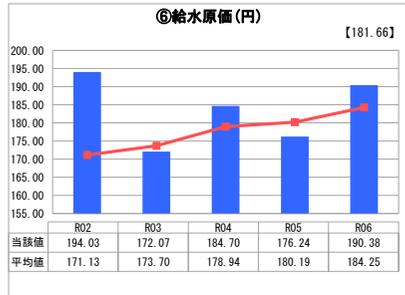
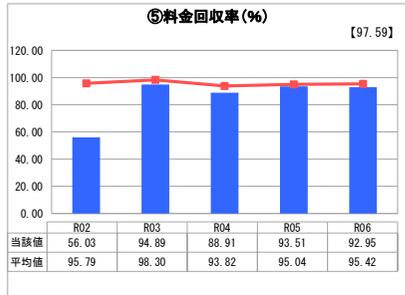
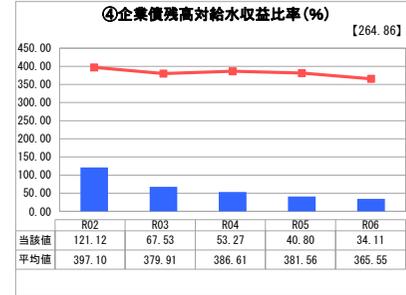
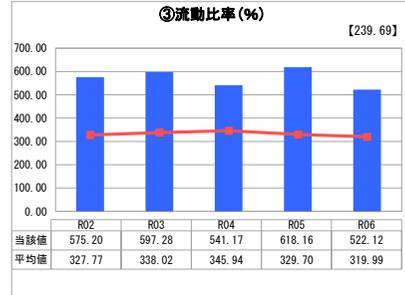
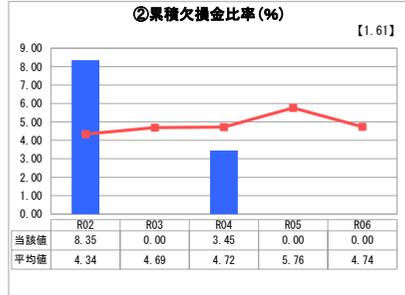
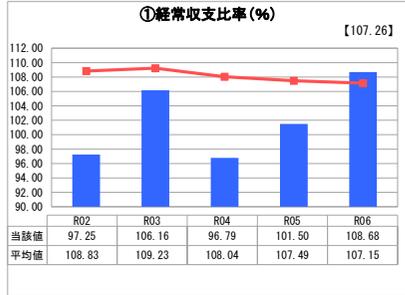
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)	
-	93.13	98.65	3,680	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,525	66.46	489.39
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,014	47.38	675.69

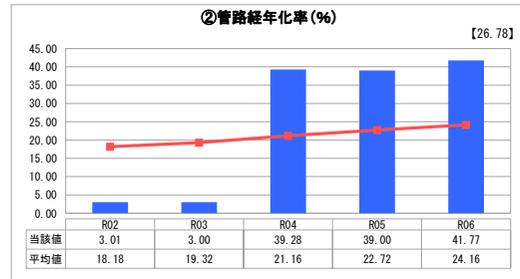
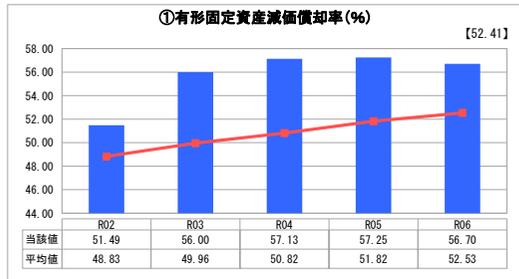
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を上回っており、類似団体平均値を上回る数値であるが、今後も経営改善のための取り組みを継続して行っていく。
 ②累積欠損金比率は、0%で欠損金は発生していない状況であるが、今後、人口の減少等による給水収益の減少や施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれるため、中長期的財政計画に基づき、より効果的な健全化対策を実施する必要がある。
 ③流動比率は、100%以上で1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等は確保されている状況であり、類似団体平均値を上回っている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を下回っているが、今後、施設の更新需要の増大に伴う企業債発行額の増加により数値が悪化することが懸念されるため、投資規模の妥当性とともに企業債残高を考慮した財源についても検討していく。
 ⑤料金回収率は基準の100%を下回っており、また類似団体平均値を下回っている状況である。適切な料金収入確保のため令和6年度から料金改定を実施したが、年度途中の改定であったこと、物価高騰対策による料金減免措置を行ったことなどから基準を下回る結果となった。引き続き、適切な料金収入の確保や経費削減等の対策を検討していく必要がある。
 ⑥給水原価は、類似団体平均値を上回っている。
 ⑦施設利用率は、類似団体平均値を下回っており、50%程度となっている。今後、施設更新時に給水量による施設能力の最適化やダウンサイジング等の検討が必要である。
 ⑧有収率は類似団体平均値を上回っており、前年度と同水準を維持している。漏水調査の実施や市民の通報により発見した漏水箇所等の早期修繕などの取り組みを継続し、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいることが読み取れる。
 ②管路経年化率は、類似団体平均値を上回っており、これも老朽化が進んでいることが読み取れるが、③管路更新率は毎年1%以下であり、管路の計画的かつ効率的な更新が今後の課題となっている。
 なお、更新にあたっては、多額の費用を伴うことから、国・県の動向を注視しながら有利な財源確保に努め、水道事業の経営を圧迫しないよう努めることとする。

全体総括

将来的な人口減少に伴う給水収益の減少や施設の老朽化に伴う更新費用の増加に見合う財源を確保するため、安定的な事業運営が可能な料金体系の検討を行うとともに、中長期的財政計画に基づく施設の更新計画を立て、確実に実行する必要がある。令和3年度においては、会計制度の見直し、令和4年度においてはアセットマネジメント、浅口市全体の適正な水運用についての検討を行った。
 令和5年度には、水道事業運営審議会において、安定的な事業継続が可能な料金体系についての審議を行い、令和6年度に水道料金を改定したが、年度途中の改定であり、併せて物価高騰対策として料金減免措置を行ったため、料金回収率は、基準の100%を下回る結果となった。
 今後も収入の安定確保、業務改善により費用の抑制に努めるとともに、限られた予算の中で最大の効果が出るよう計画的な更新を実施し、効率的な経営を進めていく。